

やってみよう！

みんなの力を合わせる 藤川の景観まちづくり

景観まちづくりには、

「まちの景色を大切にしたい」という
想いを持つ人たちが欠かせません。

わたしの家も

まちの景色の一部であり、
わたしたち一人ひとり

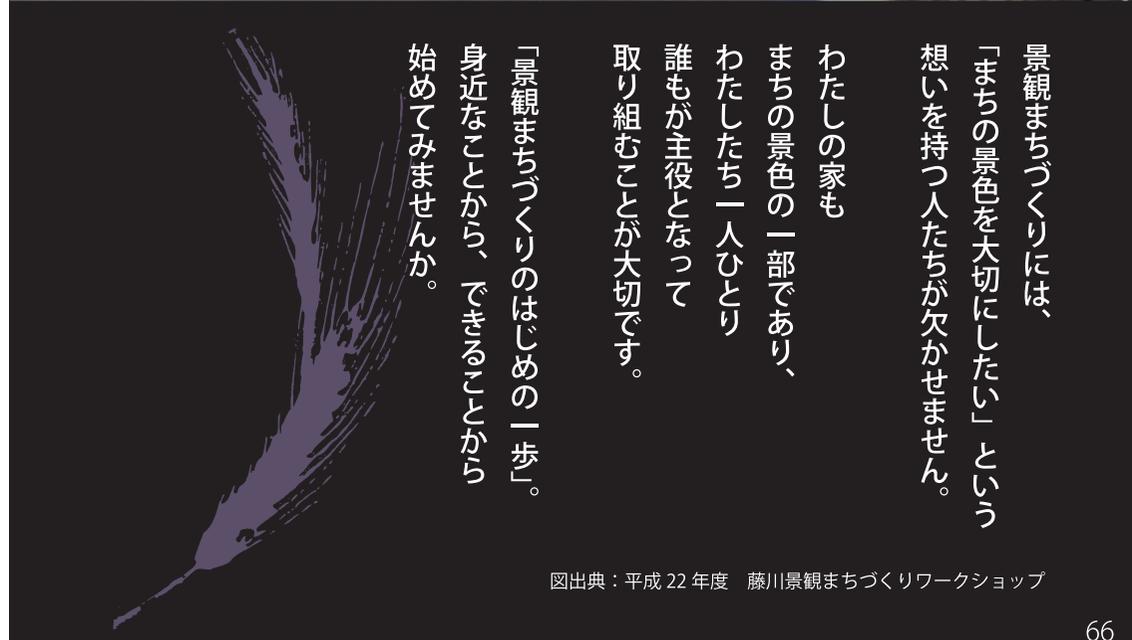
誰もが主役となって

取り組むことが大切です。

「景観まちづくりのはじめの一步」。

身近なことから、できることから

始めてみませんか。



図出典：平成22年度 藤川景観まちづくりワークショップ

むらさき麦の 再現

よもやま話

爰も三河

むらさき麦の
かきつはた

松尾 芭蕉

藤川では、むらさき麦の栽培が盛んであった
ようで、江戸時代の古い書物「東海道名所記」
に「藤川で『高野麦』というむらさき色になる
麦が風が吹くと穂が波立つほど栽培されている」
と記録されています。

紫色の麦は、江戸時代の食物図鑑的な「本朝
食鑑」によると小粒で味もよくないと食用には
不向きであったようで、山の急傾斜地にも栽培
されていたのが栽培されなくなり、幻の麦となっ
ていました。

これを再現させたいと願った故 原田市郎先生
と故・野田正夫氏の尽力により、平成六年以降、

地域住民の有志による栽培が続けられています。

再現できた品種は「大公館(だいこうかん)」「露
(つゆ)」「妻町糯(つままちもち)」「紫裸(むら
さきはだか)」「徳島糯(とくしまもち)」の五種。
今では、むらさき麦焼酎「大公館」やむらさき
麦のクッキーなどの加工食品として、販売され
るまでになっています。五月には「むらさき麦
まつり」も開催。

芭蕉も見たであろう、むらさき麦の景観は、
地域の文化として再現さ
れ、磨きをかけながら継
承されています。



むらさき麦焼酎
「大公館」

継承され
磨きがかかる
「地域の文化」



美しい景観には「理由」がある...

景観まちづくりの はじめの 一歩

みんなが主役

景観まちづくりは、歴史的な建造物だけで取り組むものではありません。

ごく普通の住宅、店舗、工場、誰もが主役です。

私たちの身の回りには、たくさんの「美しい景観」があります。

なぜ「美しい」のか？

理由は、その美しい景観をつくり、まもり、はぐくんでいる人たちがいるからです。

美しい景観は、たくさんの人の「まちの景色を大切にしたい」「良い環境に住みたい」という想いが重ね合わさって、つくられています。

そんな想いを重ねることが、景観まちづくりの第一歩になるのです。

景観まちづくりの

3つの心得



ひとりよりも
みんなで楽しむ！

ひとりからでもはじめられますが、仲間がいればもっと楽しく、効果も倍です。

急がず
コツコツ続ける！

景観を磨き上げるには時間も必要です。少しずつでも続けることで、大きな花が咲くものです。

方法は様々
いろいろ工夫する！

独りよがりにならないよう注意しながら、アイデアやセンスを活かして工夫しましょう。

取り組みの 基本スタイル

新しい魅力的な景観を
つくる

まもる

魅力ある景観を
しっかりと

将来の
まちの姿

活用
いかす

良好な景観の
価値や魅力を

なおす
改善

良好な景観を損ねて
いる部分を取り除き

はぐくむ
育成

みんなの
共有の財産として

みんなでやれば 大きな力に

個々の取り組みをつなぎ広げて、まちの魅力や価値を高め、住みたいまち、訪れたいまちをかたちにしていきましょう！

藤川は「藤」や「むらさき麦」など紫と縁が深いまちです。

「紫」はもともとムラサキ（紫草）という群生する植物の名前で、「群（むら）」+「咲き」と呼ばれるようになったとされています。栽培が難しく手間と時間がかかるため、日本では古来より特別な意味を持つ色として、聖徳太子の

冠位十二階では最上位の象徴となるなど、気品や風格を兼ね備える美しい色として尊ばれています。

藤川の景観まちづくりもムラサキのように手間と時間をかけて個々の取り組みをつないで群れとし、みんなで気品や風格あふれる愛着と誇りの持てる美しいまちの花を咲かせましょう。

自然・地形の特徴を「いかす」

アイデア01 水・緑・地形となじませましょう！



水・緑・地形は、まちの景観を特徴づけるうえで最も基盤となるものです。地形の起伏は、植生や土地利用などに影響を与え、まちの姿として景観に表れます。土地の改変は、自然・地形の特徴を活かして最小限にとどめるなど、周辺になじませましょう。

身近な水や緑を「はぐくむ」

親しみふれあえる身近な水辺を育みましょう！ アイデア03



山綱川や城山川、百田川などの水辺の景観は、わたしたちのくらしに潤いや安らぎを与えてくれます。安全に水と親しみふれあえ、多様な生き物を育む身近な水辺の環境を育みましょう。

アイデア02 まちからの山並みへの眺めを意識しましょう！



まちの背景となる山の景観は、奥行きが感じられるとともに、わたしたちのくらしに落ち着きや安心感を与えてくれます。山アテや見晴らしの良い場所からの眺めを阻害しないよう、建物などの配置や高さなどを工夫しましょう。

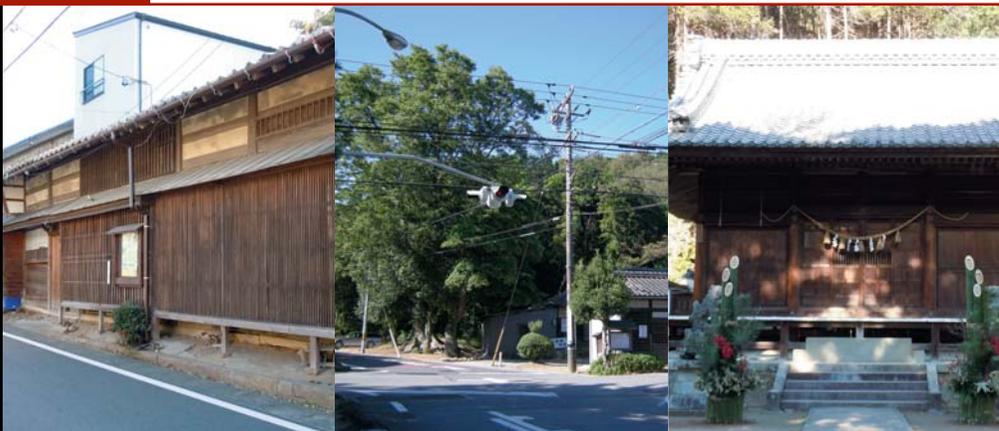
花や生垣など身近な緑を増やしましょう！ アイデア04



緑ある景観は、わたしたちのくらしに潤いや安らぎを与えてくれます。背景となる山並みや、これまで大切にされてきた、まちの歴史を物語る樹木や社寺林の緑と、まちを彩る花や生垣などの身近な緑のつながりを広げましょう。

宿場町の風情を「つくる」

アイデア 05 歴史を伝える代表的な建造物などを守りましょう！



歴史的な建造物などの景観は、まちへの誇りを育む源となります。かつて宿場町として栄えた頃の歴史や成り立ちが表れている建造物やまつ並木を大切に守るとともに、「むらさき麦」の再現などによって宿場町の風情をつくり、次世代に継承しましょう。(米屋などの町家の利活用、高札場などの復元、屋号の表示など)

建物デザインを「いかし」なじませる

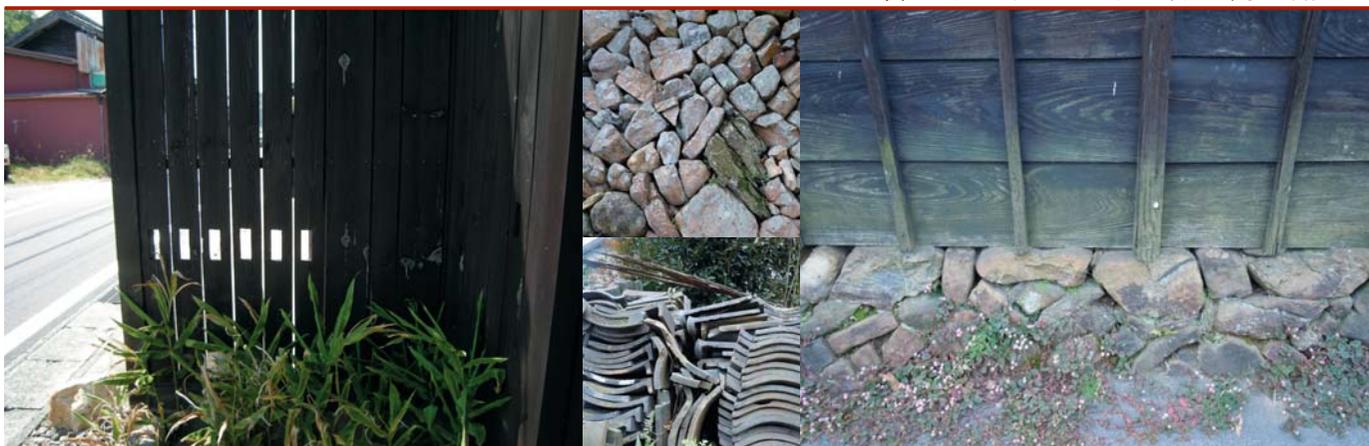
町家のデザインを新たなデザインとして表現しましょう！ アイデア 06



まちが少しずつ変わるように、まちの姿である景観もまた、歴史的なものだけでなく、新しくつくられるものと一体となってかたちづくられ、常に変化していくものです。

建築物の建て替えなどの機会には、たとえば、歴史的な建造物である町家のデザインを取り入れるなど、積極的にまちの歴史や成り立ちを表現しましょう。(屋根のかたち(切妻平入り)や素材(瓦)、格子、色彩など)

新たなデザインを古材の再活用でなじませましょう！ アイデア 07



土、石、木などの自然素材は、年月とともに歴史を積み重ね、だんだんと風化することにより何ともいえない風合い、風格を漂わせています。これらの素材と新しい素材をうまく組み合わせることでデザインにぐっと深みが増します。

たとえば、歴史的な建造物である町家などの古材を積極的に活用し、新たなデザインとして表現しましょう。

藤川らしさを「はぐくみ」まちを元気にする

アイデア 08 藤川らしさに磨きをかけて、さらに魅力を高めましょう！



むらさき麦

かつて栽培が盛んであった「むらさき麦」の再現。

東棒鼻ポケットパーク

東海道五十三次之内 保永堂版
藤川「棒鼻ノ図」を手がかりに修景整備。

米屋等の町家

近世近代のくらしの文化継承など
付加価値を見出し、利活用しながら、まちづくりの拠点のひとつとして保全。

かつて宿場町として栄えた藤川のまちには、東海道藤川宿としての歴史や文化が今もしっかりと息づいています。

場所の持つ空間の特性（歴史・文化等）を丁寧に読み解いて、新たなまちづくりに活かすことによって、藤川らしさに磨きをかけて、魅力を高めましょう。

みんなで「つくる」まちなみで、藤川らしさを「はぐくむ」

アイデア 10 「くらしの環境の向上」と「良好な景観づくり」のセットで考えましょう！



安全・安心、快適にくらせるための生活環境の改善のまちづくりと、宿場町であったという個性を活かした藤川らしい良好な景観づくりとが一体となった、「住んでよし、訪れてよし」の「景観まちづくり」にみんなで取り組み、生活環境の住み良さやまちの魅力や活気を高め、まちへの誇りや愛着を育みましょう。

アイデア 09 交流と賑わいの場を演出しましょう！



道の駅

地域振興施設では地域の物産や観光情報を発信し、地域活性化の拠点として整備。

地域交流センター

まちづくりやボランティア、NPOなどの市民活動、生涯学習活動を支援する拠点として整備。

藤川固有の特性（歴史・文化等）に根ざしたまちなみ景観は、多様な人々の交流や、まちの賑わいを生み出す力を持っています。まちの魅力や活気を高め、まちを元気にする、交流と賑わいの場を演出しましょう。

アイデア 11 藤川らしさを感ずることのできる空間をつくりましょう！



まちなみ景観の核となる藤川らしさを伝える歴史的な建造物などの周辺の建物などの外観デザインは、歴史的な建造物などと調和するよう、多様で柔軟な配慮によって地域の魅力や活力を高め、藤川らしさを感ずることのできる空間をみんなでつくしましょう。

骨格的な景観を「つくる」

アイデア 12 骨格となる旧東海道の街道景観に磨きをかけましょう！

歴史的・文化的価値が評価され、国より歴史国道「東海道藤川宿」として選定された旧東海道。

現代もくらしに欠かせない道路として、そして地区内の資産を「つなぐ」道として、利用者が安心して利用できる快適性と、道路舗装の工夫などにより沿道のまちなみを引き立てる潤いある道路空間をつくり出しましょう。

アイデア 13 電線類の無電柱化を進めましょう！

上空に張り巡らされた電線類は良好な景観を阻害する要因のひとつであるほか、防災上、安全上からも無電柱化が望まれます。

宿場町の風情が漂うまちなみを引き立てるよう無電柱化により阻害要因を改善していきましょう。

アイデア 14 地域の個性を活かした公共施設をつくりましょう！



公共施設は規模が大きいことが多く、ときに地域のシンボルとなることもあります。

公共施設は、周辺環境と調和し連続性のあるまちなみづくりに貢献するよう、地域の個性を活かして周辺のまとまりを高めるようデザインしましょう。

周りと共にまちなみを「つくる」

お隣同士からはじめましょう！ アイデア 15



自分の家もわたしたちみんなの景色の一部です。まずは、自分の家を中心とした「向こう三軒両隣」の身近なまちの景色からはじめてみませんか。お隣さんと楽しみながら玄関前の清掃やプランターに花を植えてみたり。

建築物の建て替えなどの機会には、たとえば、お隣さんと高さや壁面の位置、壁の色や屋根の向きなどが調和するよう配慮して、連続性のあるまちなみをつくりましょう。

個々の取り組みをつないで拡げましょう！ アイデア 16



景観は目に映るものすべて。そして長い時間をかけて育てていくものです。個々の取り組みはとても小さいかもしれませんが、周辺のまとまりを高めるよう、いつも意識しながら、藤川らしい景観まちづくりの取り組みを拡げましょう。

できることから始めよう

みんなで想いをわかちあい、取り組みを「はぐくむ」

アイデア 17 景観についての理解を深めましょう！

景観は見て感じる事。心地よいかどうかなどの景観まちづくりの効果は一目瞭然です。

自分の家や部屋をきれいにすると同じように、まちをきれいにしていくことについての関心や理解を深めましょう。

アイデア 18 家の表構えからはじめましょう！

このまちに住む人、訪れる人、みんなが心地よく、くらすためにできる身近な取り組み。自分の家もわたしたちみんなの景色の一部です。

まずは、自分の家の前の清掃や生垣の手入れなど表構えを楽しみながら整えることから始めてみましょう。

アイデア 19 身近な景観を大切にしましょう！



景観まちづくりは、歴史的な建造物のみ、そして宿場町の風情を漂わせるためだけに行う取り組みではありません。

最も身近な景観である日々のくらしの営みが色濃くにじみ出た「生活景」には、その土地の歴史や文化がしっかりと映し出されています。くらしに根ざした日常の景観を再発見し、再評価し、大切にしましょう。

お祭りで地域への誇りと愛着を育もう！ アイデア 20



お祭りは、まちの個性そのものであり、古来より地域の交流を深めたり、伝統の継承など重要な役割を果たしてきました。

「傘鉾祭」や「竿燈祭」などの伝統の祭り、「むらさき麦まつり」などの新たな祭りによって、愛着と誇りを育みながら地域の文化や伝統をしっかりと後世に伝えましょう。

景観まちづくりの取り組みを育みましょう！ アイデア 21



景観まちづくりは一人でも取り組みますが、みんなで一緒に取り組むことで、さらに楽しく長続きすることができるでしょう。まちの魅力や価値、そして課題を共有し、想いをわかちあうことで交流と連携が広がります。

身近な活動から地域へ拡げ、まちの景観を良くしていくための様々な取り組みを進化・深化させましょう。

写真提供 1 杉浦彰氏